

[報告要旨]

論題：低位定常均衡としての失業の継続

報告者：(所属 なし) 竹内敬夫

報告要旨：

主流の経済学では、失業を賃金や価格の硬直性から説明するモデルが普通だが、本稿では、失業の継続を、各企業が利潤の最大化を追求し、各家計が主観的には効用を最大化しての、市場での調整における複数均衡の下位均衡として示す。そのためにモデルで、生産関数について、コブ=ダグラス型とレオンチェフ型、家計について、正の貯蓄の家計と負の貯蓄の家計との、2つの組合せという工夫を加えた2財モデルにしている。

基本的な課題は、次の3つである。

[課題1] 失業の継続を、各企業が利潤の最大化を追求し、各家計が主観的には効用を最大化しての、市場での調整における複数均衡(多数均衡)の下位均衡として示す。

——賃金や価格の硬直性からの失業の説明では、構造的要因になってしまい、そのままでは完全雇用と両立する複数均衡にはならない。

[課題2] 「投資 = 貯蓄」の恒等式で、主流派の理論が示す「貯蓄 投資」に加えるべき、投資が貯蓄に影響するメカニズムを明示したモデルを提示する。

——新古典派の成長論は家計の貯蓄が資本を増加させることで経済が成長する形(貯蓄 投資)になっている。もうひとつの投資が貯蓄を決定する面、「投資 貯蓄」を示して、投資が成長を主導する経済の姿を示唆する。

[課題3] 課題2に関連して、各期の経済としての集計の消費水準が、正の貯蓄の家計と負の貯蓄の家計との構成比(失業の増減は構成の変化)に対応することを示し、失業と有効需要の関係をモデルで明示する。

モデルそのものは、そう特殊なものではなく、

$$\text{(生産) 資本財} \quad Y_b = \min \left[\frac{K_b}{\gamma}, \frac{L_b}{\ell} \right] \quad (\text{レオンチェフ型})$$

$$\text{消費財} \quad Y_g = k_g^{\beta-1} \cdot K_g \quad (\text{コブ=ダグラス型})$$

$$\text{賃金} \quad w = (1 - \beta) k_g^{\beta}$$

$$\text{(家計)} \quad I + D = C + S_e \quad (D: \text{負の貯蓄家計の預金引出} \cdot \text{資産売却}) \\ (S_e: \text{正の貯蓄家計の貯蓄})$$

$$\text{(需給)} \quad L = L_g + L_b \quad (L \leq N), \quad K = K_g + K_b, \\ I = wL + r_p K, \quad Y_g = C, \quad Y_b = K + K$$

というモデルで、しいて違いを言えば、各期の投資 K と k_g とがその前の期に決定されると想定している。

この論文は、大阪市立大学『経済学雑誌』に投稿して、査読済みなので、いずれ掲載されるはずであるが、それまでの間は、t.102.t@juno.ocn.ne.jp にメールください。